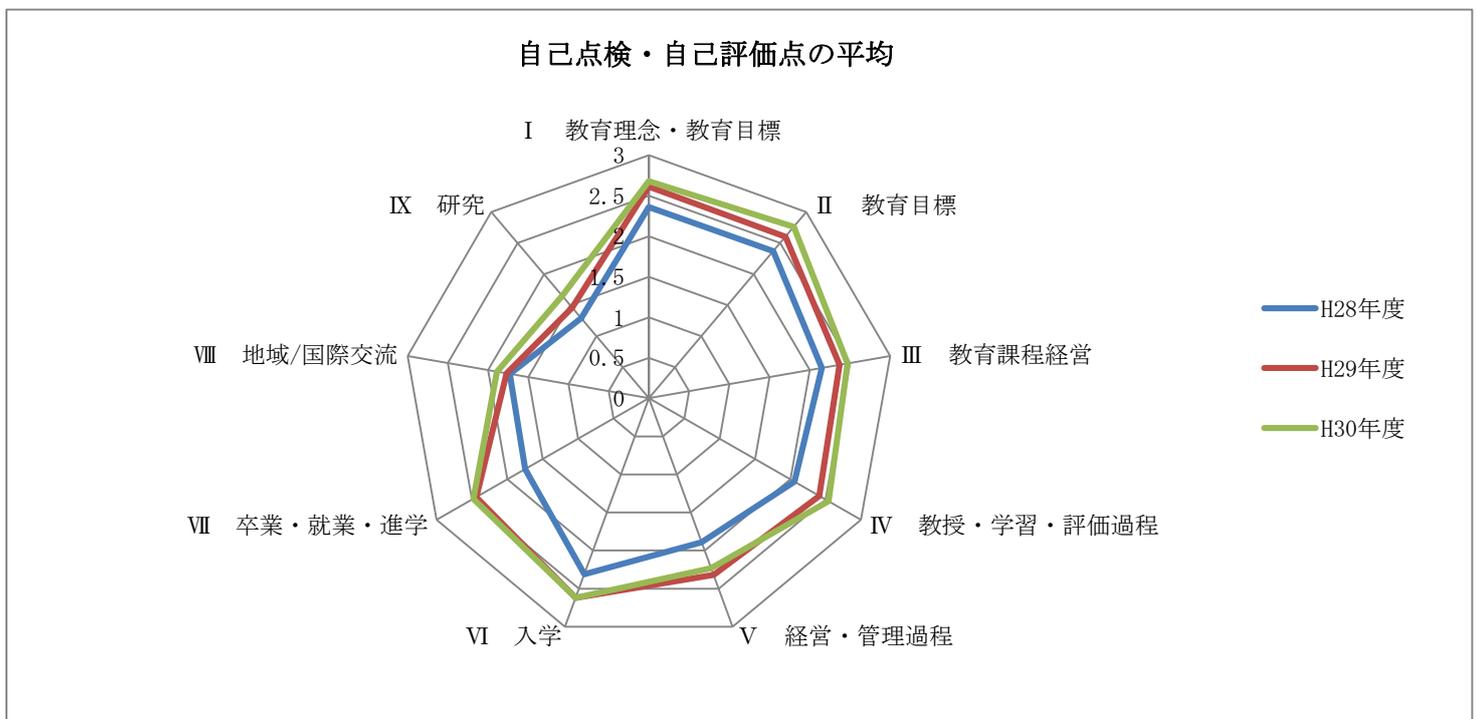


平成 30 年度の自己点検・自己評価の結果

カテゴリー	H28 年度	H29 年度	H30 年度
I 教育理念・教育目標	2.36	2.61	2.68
II 教育目標	2.37	2.6	2.76
III 教育課程経営	2.15	2.37	2.47
IV 教授・学習・評価過程	2.06	2.41	2.54
V 経営・管理過程	1.89	2.32	2.23
VI 入学	2.31	2.62	2.62
VII 卒業・就業・進学	1.75	2.44	2.48
VIII 地域/国際交流	1.73	1.77	1.89
IX 研究	1.29	1.46	1.65



平成 30 年度の自己点検・自己評価のまとめ

1. I 教育理念・教育目的の項目について

教育理念・教育目標に関する項目は、引き続き全体的に評価点が高かった。前年度に、SWOT 分析を行うことで当校の教育理念・教育目的の現状を意識でき、事業計画を全職員で企画できたことが影響していると考えられる。

今後のカリキュラム改正では、看護基礎教育が社会情勢のなかで何を求められているかを研修会・学会に参加して学習していく。

また教育理念にある自律した行動がとれる看護職の育成での取り組みでは、自治会の設立を目指していく。

## 2. II 教育目標の項目について

卒業生の就職先への訪問では、基礎教育と臨床現場では乖離があった。とくに、基本的な看護技術の習得と主体的に学習していける力である。基本的な看護技術の習得では、卒業時到達レベルの到達レベルの承認状況を分析し、看護師国家試験後から卒業までの期間に補習教育をしていく必要がある。

主体的に学習していける力では、今年度新 1 年生から社会人基礎能力の育成に取り組んだ。今後は、その評価をしていく。

## 3. III 教育課程運営

教員の教育・研究活動の充実の項目は、前年度と同様に評価点が低い状態である。

教員は、年々臨地実習での教授方法等の検討により教育に対する意識は高まっているが、臨地実習指導により授業準備(教材研究)・リフレクションの時間確保がされていないという課題がある。

新人教員には、自ら成長できるように新潟県看護教員ラダー表を基盤した新任教員指導要項を作成し、プリセプター制度を導入した。今年度は、プリセプターと評価していく必要がある。

## 3. III 教育課程運営

教員が専門性を発揮できるような教員の担当科目と時間数を配分しているという項目では、これまでは担当科目と時間数を副校長・教務主任が決定していたが、各担当教員と面談して担当領域と担当科目及び講義内容を検討していく。

## 4. IV 教授・学習・評価課程

授業展開過程における評価の考え方が不明瞭であった。評価の考え方を明示することで、授業の修正・改善のための教材研究への意識もさらに高まると考える。

## 5. V 経営・管理過程

この項目は、前年度と引き続き全体的に評価点が低い状態である。各項目で記述していく。

### 1) 設置者の意思・指針

今年度初めて、理事長を含めた本部の考えきくとともに、意見交換の場を設けられた。このことを継続していく必要がある。

### 2) 組織体制

教員採用・育成等では、教育理念・教育目的に立ち戻り実施していく。

### 3) 財政基盤

教職員が、当該年度の収支決算、次年度の予算案が理解できるように、職員会議で事務長から説明を受ける機会を設けた。このことを継続していく必要がある。

### 3) 施設設備の整備

管理者の考え方は、今後は職員会議で教職員に事業計画で明示していく必要がある。

実習室・備品の管理と整備をしていく必要がある。

### 4) 養成所の運営計画と将来構想

本部の考えた方については、理事会等で報告があった場合は、職員会議で教職員に確実に伝えていくことを継続する。

5 の続き

5) 自己点検・自己評価体制

今年度は、前年度の課題となっていた事業計画での次年度の取り組み課題を検討する前に自己点検・自己評価表を実施し、その結果の分析・改善策を反映させるという体制がとれた。

6. VI入学について

前年度から全教員に入学者選抜に関与してもらうために、入試面接評定表の内容を同じレベル・基準で評価できるように見直した。また今年度からは、社会人基礎能力の特に主体性・チームで働く力を評価するために集団面接も導入し、集団面接評価表を用いて実施した。今後は、選抜方法の妥当性、教育効果からの分析が必要である。

7. VII卒業・就職・進学

前年度から就職先への訪問を実施でき、2. II教育目標のような結果であった。その課題の改善を図り、継続的に就職先への訪問を行って卒業生の状況を評価していくことが重要である。

8. VIII地域/国際交流

今年度は、学生のボランティア委員会を創設して窓口を事務にし、地域に対しての門戸を広げることができた。今後も地域に上越看護専門学校を発信するとともに貢献できるように、ボランティア活動を継続していく。また、更に地域への発信方法を検討していく。

9. 研究

現在は、長岡医療と福祉の里学会の担当者が活動している現状である。III教育課程運営の課題を改善し、教員全体で取り組み、共有していくことが必要である。